

# 国指定等文化財等の防火対策、耐震対策【文部科学省】

## 施策概要

国指定文化財(建造物)等において、自動火災報知施設や消火栓施設・スプリンクラーの設置、放水銃・ドレンチャー等の整備、耐震診断や耐震対策工事の実施等の防火・耐震対策を推進

## 効果

火災や地震等による文化財の被害を防止

## 全国的な対策と効果

**対策1** 国指定文化財(建造物)や国宝・重要文化財(美術工芸品)が保管される博物館等の防火対策(全国67箇所で開催)

**善光寺(長野県長野市)**

超高感度煙感知システム  
記録に残るもので大小十数回以上、本堂や伽藍の火災を経験。最新の超高感度火災予知装置を設置することで、火災を早期発見

※能美防災株式会社HPより

**京都府京都市**

市内の多くの文化財建造物に自動通報装置を設置

防火署、消防団、ドレンチャー、避難針、防火壁、サイレン、動か消防ポンプ、非常ベル、放水銃、屋根消火栓、自動火災報知設備、火災通報装置

＜京都市消防総合的な防災施設の整備拡充＞  
※京都市消防HPより

**対策2** 国指定文化財(建造物)等の耐震対策(全国101箇所で開催)

**上時国家住宅納屋(石川県輪島市)**

耐震補強済みの納屋は、基礎布石積のずれや壁の剥落等にとどまり、被害は小規模

建物外観

鉄骨補強、耐圧板設置

大きな修理、補強履歴のない主屋は倒壊

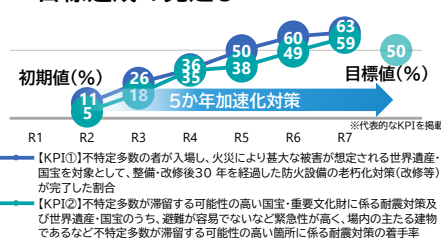
主屋

## 予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
48億円	46億円	41億円
R6	R7	累計
44億円	10億円	188億円

※ 予算額(国費)(加速化・深化分)は、対策番号20-(1)と20-(2)の合計額を記載  
※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている

## 目標達成の見通し



## 整備事例

# 国宝彦根城天守の耐震対策により、安全を確保及び文化財を保護する



滋賀県彦根市



滋賀県彦根市



重要文化財等防災施設整備事業

## 耐震対策の内容

土壁位置での構造用合板補強



鉄骨フレームによる石垣出入口部の安全対策工事



鋼製ケーブルによる水平構面補強



国宝彦根城 外観



## 事業費

0.7億円(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)0.1億円)

## 事業の背景(地域の課題)

滋賀県彦根市に所在する国宝彦根城天守は、慶長11年(1606年)に建造されたわが国城郭建築の代表的遺構の一つで、多数の見学者が訪れています(令和5年度実績:651,149人)。彦根市は、南海トラフ地震発生時には最大震度6強の揺れと建造物の倒壊被害が想定されているため、城郭天守の耐震補強を行っています。

## 事業の内容

本事業では、土壁と建具位置での構造用合板による補強、鋼製ケーブルによる水平構面補強、見学者の出入口口となっている石垣内部の鉄骨フレームによる安全対策工事を実施しました。

## 見込まれる効果

耐震対策の実施により、南海トラフ地震発生時でも当該施設において大きな被害は生じない見込みであり、施設利用者の安全性確保や文化財的価値の維持が可能となるほか、見学施設としての活用が継続できることにより、経済効果の安定的な確保も見込まれています。

(1)	人命・財産の被害最小化	1	激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策
(2)	交通・ライフラインの維持	2	インフラの老朽化対策
(1)	施策のデジタル化	3	国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進
(2)	災害関連情報の高度化		